

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第33号 〔2011年7・8月合併号〕

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第33号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー	[2]
新現地スタッフのブログがスタートします！	[3]
国内から (梶 藍子)	
・ 米国から再出発	[4]
国際保健医療協力のなかで (13)	(小林 潤) [5]
シンシア医師の本 発売中！	[6]
編集後記	[6]
次号の予定	[7]



メソトマンスリー

昨年11月に催された総選挙で2万5000人以上の難民がタイ、タック県へ流出してから半年がたちました。今年6月末、メータオ・クリニックと連携を持つ Back Pack Health Worker Team のレポートによると未だ7000人以上もの難民がタイ・ビルマ国境沿いに身を隠しながら避難していると報告しています。(*1)

その多くが国際機関、国際NGOの保護を受けることなく、また正式な難民認定なしに暮らししており、メータオ・クリニックや Back Pack Health Worker Team のような地域住民自治組織からの支援を頼りにしています。

カレン州の Papun, Thaton ではさらなるビルマ政府とカレン族の対立が深まりつつあり、カチン州、シャン州においても武装紛争によりここ数カ月間、多くの住民が国内避難民あるいは避難民としてタイへ逃れています。

メータオ・クリニックがサポートするタイ・メソト国境沿いにある寄宿舍ではビルマ国内から教育や保護を求める子どもたちが暮らししており、その数は増加の一途をたどっています。続く紛争は子どもたちをホームレス、孤児にさせ、また紛争により廃墟となった村々の大人たちは子どもたちを養う力がありません。

シンシア医師が5月に緊急援助要請の声明を出してからおよそ2カ月がたちました。

情勢の悪化により高まる新たな難民流出に備えメータオ・クリニックでは継続した支援を要請しています。

(*1) Situation Update : Conflict and Displacement in Burma's Border Areas 30th June 2011. Back Pack Health Worker Team

緊急支援の呼びかけ

6月7日メータオクリニックからの支援の呼びかけメッセージを受け、ビルマを支援する団体が共同で寄付を募る運びとなりました。

メータオ・クリニック支援の会も賛同させていただいています。

昨年11月のビルマ総選挙後、タイ国境において停戦合意中の少数民族武装勢力がビルマ国軍への強制編入および総選挙への強制参加に反発し、ビルマ国軍との間に武力衝突が発生しました。

その結果、衝突直後最大1万人以上の難民がタイに流入しました。今年1月以降、戦闘はビルマ南部の農村部へと広がり、今現在は田植えの時期にあたることから、今後食糧危機が更に深刻化することが予想されます。戦闘は現在まで続いており、避難民たちは長期にわたって居住地に帰還できない状態が続いています。

こういった状況を受け、タイ・タック県のメータオクリニックで長年にわたって、難民等への医療活動に携わってきた著名な医師、シンシア・マウン氏から緊急の支援を訴えるメッセージが届きました。(下記参照)。



ビルマ難民支援基金事務局では、シンシア医師の切実なメッセージを重く受け留め、日本国内の皆さまに緊急支援の呼びかけを行うこととしました。

14万人以上ともいわれるタイ・ビルマ国境地帯のビルマ難民は、日常的に過酷な生活を余儀なくされています。

こういった難民がさらに膨れ上がろうとしている現状を少しでも改善できるよう、皆さまからの支援をよろしくお願いいたします。

<支援金 振込先>

三井住友銀行 麹町支店 (218)
(普通) 1607998

口座名「ビルマ難民支援基金事務局 渡邊彰悟」

※支援金は全額メータオクリニックに直接送金させていただきます。

[賛同] ビルマ市民フォーラム <http://pfb-japan.org/>
メータオクリニック支援の会 <http://www.japanmaetao.org/>
日本ビルマ救援センター <http://www.brcj.org/>
(社) アムネスティ・インターナショナル日本 <http://www.amnesty.or.jp/>

シンシア医師からのメッセージ等については、6月号会報をご覧ください。

新現地スタッフのブログがスタートします！

7月28日に日本を出発し、新しく現地スタッフとして赴任した看護師、前川由佳のブログがスタートします。

人、想い、メータオへ。
<http://omoimaetao.blog.fc2.com/>

現地の様子や現地での彼女の生活っぷりなど、不定期に更新の予定です。

ぜひ、ごらんください。



国内から

米国から再出発

【東京=梶 藍子】

2007年7月、私が初めてメータオ・クリニックの外科病棟の門をたたいた時、外科病棟で唯一私と年齢が近い女の子がいました。

彼女の名前はセイリア。ビルマ・カレン州出身です。

幼い時から紛争が絶えない州で暮らし家族とともに村を転々とするのを余儀なくされました。高等教育を受けるために家族のいるカレン州を去り、ウンピャン難民キャンプで1人勉強しました。

あるとき、難民キャンプでメータオ・クリニックの存在を知り、紛争下で病に苦しむ人の役に立ちたいと思い、メータオ・クリニックのメディカルスタッフとなりました。3年半のクリニック勤務を終え、2008年5月、かねてから希望していた他国での再定住の夢をかなえるため渡米しました。

この7月、米国の大学院で公衆衛生の勉強をするために私も渡米しました。

スカイプ、メールで連絡を取り続けていた私とセイリア。約3年ぶりにセイリアと再会を果たすことができました。

現在、セイリアは結婚し、カレン族のご主人とともに米国ニューヨーク州のバッファロー市に住んでいます。昼間はコミュニティーカレッジと呼ばれる短大で勉強し、夜はイタリアンフードレストランでアルバイトをしています。彼女のご主人は、コミュニティーカレッジを卒業し、現在は帽子を作る工場で働いています。

渡米直後は、政府が委託する難民支援団体の支援を受け、200ドルの食事券と300ドルの生活費をもらい、しばらく生活していたそうです。

昨年12月にマイホームを購入し、車も買いました。難民キャンプでは竹作りの家に住み、ござを引いた床の上で寝ていた彼らも、今では洋風の家に住み、ベッドの上で眠ります。

「今の私は姉の子供たちの教育費を助けてあげられるけど、メータオ・クリニックにいたときの私はとても貧しく、家族を助けられる余裕はまったくなかったわ。タイにいた時はいつもタイ警察におびえながら暮らしていたし、許可書なしには簡単に難民キャンプ、クリニックからはでられなかった。でも、米国では自由に買い物もできるし大学にも行ける。ここには自由があるの。」

今の暮らしぶりを語るセイリアには、以前よりも自信に満ち溢れているような気がしました。

庇護国の保護を受けることなく、米国、カナダ、オーストラリアなどへ第三国定住を選択する難民たち。第三国の地でも必ずうまくいくとは限らず、新しい文化、環境になじめない



難民も多くいます。母国の空気に触れ安住できる日が一日でも早く来るように願ってもやみません。



写真1：ビルマ料理を作るセイリア。



写真2：筆者とセイリア

(右筆者。左セイリア。米国にてから6キロ近く太ったというセイリア。私もジャンクフードを食べて太らないか心配です)

国際保健医療協力のなかで (13)

【東京＝小林潤】



3代目の派遣スタッフが旅立った。期待と不安が重なっている様子が感じられ、なんとかしてあげたいとも思った。しかし、出発前に伝えられるものは限られている。今、現場で楽しく、且つもまれているのではないかと想像する。

私が長期に仕事で海外にでたのと同じ歳である。初めて海外にいったのは大学時代だった。自作の筏での漂流を仲間と試み成功裏におわったが、おかげで学業では留年という羽目になり、心の空白を埋めようと出かけた東南アジアだった。沖縄から台湾、香港と乗り継ぎ、バンコクにつくまで長く感じ、常に手が汗ばんでいたような記憶がある。卒後は、同じくタイでチェンマイ大学との共同研究にたった一



人送り込まれたのだが、受け入れ先の共同研究者に手取り足取り教えていただき、且つ迷惑をおかけしてばかりだった。今思えば赤面せざるをえない。

初めての旅であっても、仕事であっても、今思えば、行き先でのあった方々に多くのお世話になっている。それも皆、年上の方々だった。

「自分だけよければいい」といった若者の典型であった自分が、今、国際協力の仕事をしているのはこういうお世話になった人のおかげかもしれないと、最近になってやっと思えるようになった。せっかく大学にきたのだから、お節介と思われてもいいので若者と付き合ってみようと思っている。

初めての海外でバンコクに降り立ち、挨拶にいった父の友人のホテルのマネージャーと、初めて仕事にいった受け入れ先のチェンマイ大学の大教授の顔は、だぶってしまい、よく思い出せないのだが、その場面というのは、それぞれ明確に覚えていて忘れられない。

今頃、Mさんはシンシア先生に面会し終わっただろうか。

シンシア医師の本 発売中！

『タイ・ビルマ 国境の難民診療所—
女医シンシア・マウンの物語』

(新泉社、1800円)



全国の書店、またはアマゾン等で発売中です！！

当会が編集協力した『タイ・ビルマ国境の難民診療所—女医シンシア・マウンの物語』(新泉社、定価 1800円)が発売中です。

本書は、当会の支援先であるメータオ・クリニックとその創始者シンシア・マウン医師に焦点をあてたものです。

当会は、さまざまな現地情報の提供、スタッフの梶藍子看護師による体験記の収録等で協力しました。

本書の印税は、当会を通してクリニックへ全額寄付されます。

編集後記

7月の後半に宮城県のとある海沿いの自治体に出張していました。

思ったこと、考えたこと、いっぱいあったのですが、この編集後記は、ゆるゆるのほほんさをコンセプトにしているので

現地で食べておいしかったので皆さんにもぜひおすすめしたい一品たちベスト5を紹介します。



